

潰瘍性大腸炎に合併した dysplasia, cancer の外科治療指針

研究分担者 畑 啓介 東京大学腫瘍外科 特任講師

研究要旨：潰瘍性大腸炎合併大腸の外科治療指針を決定するためには、多施設における検討が重要である。本研究では主要な専門施設における潰瘍性大腸炎合併大腸癌手術症例をレトロスペクティブに調査することにより、その臨床病理学的検討を行い、適切な治療方針やサーベイランス方法を明らかにすることを目的に研究を行う。本検討では 10 施設から後方視的に潰瘍性大腸炎合併大腸癌/dysplasia400 症例以上のデータを集積しており、現在解析中であり今後英文論文を予定している。

共同研究者

杉田 昭（横浜市立市民病院炎症性腸疾患センター）
池内浩基（兵庫医科大学炎症性腸疾患学講座）
福島浩平（東北大学消化管再建医工学分野）
二見喜太郎（福岡大学筑紫病院外科）
楠正人（三重大学消化管・小児外科学）
小山文一（奈良県立医大中央内視鏡超音波部）
水島恒和（大阪大学臨床腫瘍免疫学寄付講座）
板橋道朗（東京女子医科大学第二外科）
木村英明（横浜市立大学附属市民総合医療センター）
安藤 朗（滋賀医科大学消化器内科）
岡崎和一（関西医科大学内科学第三講座）
緒方晴彦（慶應義塾大学内視鏡センター）
金井隆典（慶應義塾大学消化器内科）
猿田雅之（東京慈恵会医科大学消化器・肝臓内科）
清水俊明（順天堂大学医学部小児科学）
仲瀬裕志（札幌医科大学消化器内科学講座）
中野 雅（北里大学北里研究所病院消化器内科）
中村志郎（兵庫医科大学炎症性腸疾患学講座）
西脇祐司（東邦大学社会医学講座衛生学分野）
久松理一（杏林大学第三内科）
平井郁仁（福岡大学筑紫病院消化器内科）
穂刈量太（防衛医科大学校消化器内科）
松岡克善（東京医科歯科大学消化器内科）
松本主之（岩手医科大学消化器内科消化管分野）
鈴木康夫（東邦大学医療センター佐倉病院内科）

A. 研究目的

潰瘍性大腸炎患者において大腸癌は生命予後を規定する重要な合併症であり、潰瘍性大腸炎合併大腸癌症例の臨床病理学的特徴を解析することが重要であるが、一施設における潰瘍性大腸炎合併癌症例数は必ずしも多くない。そこで、多施設の症例の蓄積により潰瘍性大腸炎合併癌症例の特徴を明らかにすることにより早期発見方法や治療法を確立することを目的とし、10 施設から後方視的にデータ集積を行い、潰瘍性大腸炎癌合併例の検討を行った。

B. 研究方法

(1) 方法

潰瘍性大腸炎合併大腸癌・dysplasia で手術または内視鏡を行った症例に関して、多施設より連結可能匿名化の状態以下にあげる項目に関してデータを収集し、その臨床病理学的な特徴に関して後方視的に調査を行った。

(2) 調査項目

性別、手術時年齢、手術時潰瘍性大腸炎罹患期間、原発性胆管硬化症の有無、大腸癌家族歴の有無、リンチ症候群の有無、手術時の潰瘍性大腸炎罹患範囲、癌発見動機、手術術式、異時性癌の有無、病理標本全割の有無、sm 以

深癌の個数、sm以深癌に併発する high grade dysplasiaの有無、sm以深癌併発する low grade dysplasiaの有無、術前に指摘されていなかったsm以深癌の有無、潰瘍性大腸炎罹患範囲外の癌、狭窄の有無、炎症性ポリープ(10個以上)の有無、Neoplasiaの範囲、TNM分類、病理組織型、予後(生存、再発)(倫理面への配慮)

多施設共同研究に関しては、主任研究施設である東京大学においてまず倫理承認を行った上で、各施設で倫理申請を行った上で承認を得た。また、個人情報に関しては各施設で連結可能匿名化を行った上で、個人情報を削除したデータを東京大学にて統計処理した。

C. 研究結果

倫理承認が得られたのちに、10施設から潰瘍性大腸炎合併大腸癌またはdysplasia計400症例以上のデータが集積され、解析を行っている。これにより多発癌の頻度やサーベイランスの有用性に関するデータが得られることが期待される

D. 考察

今後のサーベイランス方法や手術方法を決定する上で重要な結果が期待される。

E. 結論

多施設レトロスペクティブ研究により潰瘍性大腸炎合併大腸癌の特徴がより明らかになることが期待される。今後、英文論文文化の予定である。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

1 Hata K, Ishii H, Anzai H, Ishihara S, Nozawa H, Kawai K, Kiyomatsu T, Watanabe T.

Preoperative Extraintestinal Manifestations Associated with Chronic Pouchitis in Japanese Patients with Ulcerative Colitis After Ileal Pouch-anal Anastomosis: A Retrospective Study. *Inflamm Bowel Dis*,23(6),1019-1024,2017, 2 Hata K, Ishihara S, Nozawa H, Kawai K, Kiyomatsu T, Tanaka T, Kishikawa J, Anzai H, Watanabe T. Pouchitis after ileal pouch-anal anastomosis in ulcerative colitis: Diagnosis, management, risk factors, and incidence. *Dig Endosc* 29(1),26-34,2017

2. 学会発表

1 Hata K, Ishihara S, Nozawa H, Kawai K, Kiyomatsu T, Tanaka T, Nishikawa T, Otani K, Yasuda K, Muroto K, Sasaki M, Kaneko M, Watanabe T Laparoscopic Surgery in IBD in Japan, The 5th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis, Seoul, 2017年6月17日

2 Hata K, Anzai H, Ikeuchi H, Fukushima K, Sugita A, Suzuki Y, Watanabe T Ulcerative colitis associated colorectal cancer in Japan: A retrospective multicenter study. American Society for Colorectal Surgeon, Seattle, 2017年6月10日

3 Hata K, Anzai H, Ikeuchi H, Fukushima K, Sugita A, Suzuki Y, Watanabe T Optimizing surveillance colonoscopy for ulcerative colitis-associated colorectal cancer by assessing surgically resected cases: a multicenter retrospective study. Digestive Disease Week 2017, Chicago, 2017年5月6日

4 畑啓介, 安西紘幸, 渡邊聡明 潰瘍性大腸炎術後 癌サーベイランスと回腸囊炎の発生率, 第103回日本消化器病学会総会, 東京, 2017年4月12日

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし